



会長退任にあたり

このたび、2021年度の理学部同窓会定期総会において、甲斐恒人氏に本会の会長職を託し、名誉会長に就任させていただきました。

不肖私が15年もの間、本会の会長を務めることができましたのは、役員各位のご理解、ご協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。とりわけ15年の大部分を支えていただいた長原勝彦元副会長(現監事)には、そのご尽力によるところが多大でありましたし、事務局運営を孤軍奮闘していただいた大用早苗事務局員にも重ねて深謝申し上げたいと思います。

本会との関わりは、1986年に旧衛生学部同窓会理事に就いたときに始まります。あれから35年(内32年は北里大学同窓会役員を兼務)が経過したことを振り返れば、私の人生の半分近くに同窓会が身近にあったこととなります。

1994年に理学部同窓会が発足してからは、12年間を副会長として櫻井典子会長(HC2)の補佐役を務めさせていただき、その後の15年を会長として微力ながら本会の基盤整備や役員の世界交代に、そして理学部との意思疎通の円滑化に力を注いでまいりました。

本会の目的の一つが理学部の発展に寄与することであるため、理学部との良好な関係は必須ですが、その構築のために歴代理学部長や同事務長には大変お世話になり、その結果として、現在の本会があると承知しております。

ところで、理学部は北里大学にあって職能性にまったく立脚しない学部であり、またルーツを旧衛生学部が発する学部でもあるため、本会はこれらに目配りしながら、ランダムな卒業生の思いを勘案しつつ運営しなくてはなりません。

このような運営の難しさがあったにせよ会長時代を省みれば至らないことだらけであり、役員諸氏には不要な負担をかけたのではないかと案じております。

甲斐新体制に移行したことで、世代交代が促進され、理学部出身役員の活躍が期待されています。甲斐会長の優れたマネジメント能力やコミュニケーション能力をもってすれば、これらの豊かな人材を用いて、本会がより一層発展することは間違いないものと思っております。

とは申しましても、甲斐キャビネットは発足したばかりであり、皆さまのお力添えが必要です。関係各位にはご高配を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、会員の皆さまのご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、会長退任の挨拶とさせていただきます。

2021年5月23日

北里大学理学部同窓会
名誉会長 沼上 清彦(HC6)